

# サポーター説明会&交流会

子ども県議会を支えるサポーターたち  
～2025年度編～

滋賀県

子ども県議会

事務局発行 / 特別号



子ども県議会を支えるサポーターさんたち(高校生から社会人)がいます。今年度は、子ども県議会の運営を支える高校生・大学生・社会人サポーターを対象に、6月22日・7月5日・10月4日・12月7日の計4回、サポーター説明会や交流会を開催しました。世代や立場の異なるメンバーが集まり、「こども主体の学びをどのように支えるか」「どうやって関わるか」をテーマに交流と学びを深めました。



## 「子ども県議会の方針共有と、関係づくりの時間」

6月22日と7月5日の説明会&交流会では、まず今年度の子ども県議会の方針や基本ルール、子どもとの関わり方について共有しました。その後、初めて参加するメンバーと昨年度から継続しているメンバーが違和感なくチームとして動けるよう、交流を深める時間を設けました。



アイスブレイクや共通点探し、グループでの対話を通して、お互いの考え方や価値観を知り合いながら距離が縮まり、世代の違いを越えて自然と盛り上がる雰囲気が生まれました。初回から、サポーター同士の安心感や一体感が育つ良いスタートとなりました。

## 子ども県議会のスタート後、実践を振り返る対話の時間

10月4日の交流会は、今年度の子ども県議会が本格的に始まったタイミングで行い、活動後の振り返りを中心に進めました。サポーターそれぞれが、実際に子どもたちと関わってみて感じたことや、議論の進め方で工夫できる点などを共有しました。また、「提案文をどのように子どもたちと一緒につくっていくか」について意見を交換し、もし自分たちが提案文をつくるならどのような視点を大事にするか、といった深い対話も行われました。実践を踏まえた具体的な気づきが多く、サポーター同士が互いに学び合う時間となりました。



## 悩みや課題を共有し、

## より良いサポートを目指す深い対話の時間

これまでの活動をふり振り返りながら、サポーターそれぞれが感じている率直な悩みや不安、運営面での課題について、ゆっくりと言葉を交わしました。当日はお菓子や飲み物を囲んで、落ち着いた雰囲気の中で進行。和やかな空気でありながら、対話の内容はいつも真剣で、日頃の取り組みを丁寧に振り返る姿が印象的でした。参加しているサポーターは高校生から社会人まで幅広く、立場や視点もさまざまです。一つの考えにまとめることは決して簡単ではありませんが、やり取りを重ねる中で「目指す方向は同じである」ということを改めて確認することができました。課題の共有だけでなく、「こうしてみたい」「こんな関わり方ができるのではないか」といった前向きなアイデアも多数生まれ、子どもたちの挑戦をどう支えるかについて活発な意見交換が行われました。サポーター同士が迷いながらも考え続ける姿勢は、子どもたちにとっても大切な学びの手本となり、活動全体の質を高めていくものです。今後もこうした交流の場を通して、関わるすべての人が学び合い、気づきを深め、子どもたちとともに成長していける場をつくっていきたいと考えています。



## 子どもたちが当日

## 力を発揮するためには??

12月7日の交流会は、形式ばったプログラムではなく、フリートークを中心に進行了しました。子ども県議会の本番が間近に迫る中、サポーター一人ひとりが「子どもたちが本番で自分の力を出し切るために、どのような支え方ができるか」をテーマに、自由に意見を交わしました。緊張している子どもへの声のかけ方、安心できる雰囲気づくり、並び方や動線のサポート、本番前のちょっとした励ましの言葉など、現場での具体的な工夫について自然と深い話が広がりました。「どうすれば子どもたちの良さを引き出せるか」「どんな関わりが一番安心につながるか」といった、温かい視点にあふれた時間となりました。世代や立場は違っても、「子どもたちの挑戦を支えたい」という思いが共通していることを再確認し、本番を迎える前の大切なエネルギー共有の場となりました。

### ▼日頃のサポーターさんの子どもに接する様子



今年度は、6月・7月・10月・12月の計4回にわたりサポーター交流会を実施しました。前半2回では方針共有や子どもとの関わり方を学び、世代を越えた交流で安心して動けるチームづくりを進めました。10月は実践をふり振り返り、提案文づくりや議論の支え方を共有。12月はフリートークで、本番に向けて子どもたちが力を発揮できる環境づくりを話し合いました。サポーターは、子どもたちの挑戦に寄り添い、その背中をそっと支える存在です。